

<高付加価値な地域農産物の栽培、加工・販売などに取り組む事例>

○棚田を活用したブランド米を販売する

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県羽咋郡宝達志水町所司原協定			
協定面積 23.8ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	米			
交付金額 487万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	農用地の維持管理費		30%
		農道の維持管理・補修等		10%
		役員報酬		10%
協定参加者	農業者36人、水利組合4		開始:平成12年度	

2. 制度取組の経緯

当集落は、富山県境に近く、能登最高峰の宝達山系に位置し、集落から約1.3km離れた山間部に圃場整備が実施された棚田が広がり、守られてきた。

しかし、当集落においても過疎高齢化による耕作放棄地の発生が懸念されたため、本制度に取り組むことにした。具体的には、集落の農業者が一致協力し、耕作が難しくなってきた高齢者に作業受託を勧めたり、農道のコンクリート舗装を当交付金で実施するなど、本制度に前向きに取り組んできた。

平成22年度からの第3期対策についても、早々に継続の意向を固め、引き続き耕作放棄地の発生を未然に防止し、将来にわたって継続的な農業生産活動等を可能となるよう活動を進めている。

3. 取組の内容

農業者の高齢化が進行しているため、第3期対策より協定農用地の維持が困難となった場合には中核農家が引き受ける体制とし、この中核農家を中心としたオペレーターの育成を進め、耕作放棄地の増加を防止している。

また、水田を冬期湛水させて生き物が生息できる環境を確保しつつ、この地域の清流にしか住まない「かじか蛙」と寒暖の差が大きく美味しいお米がとれる棚田の特徴をPRして「所司原米」や「ほうだつ山麓米」などのブランド米として販売し、農業者の所得の安定と意識向上を図っている。



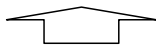
【冬期湛水の様子】



【ほうだつ山麓米】

[集落の将来像]

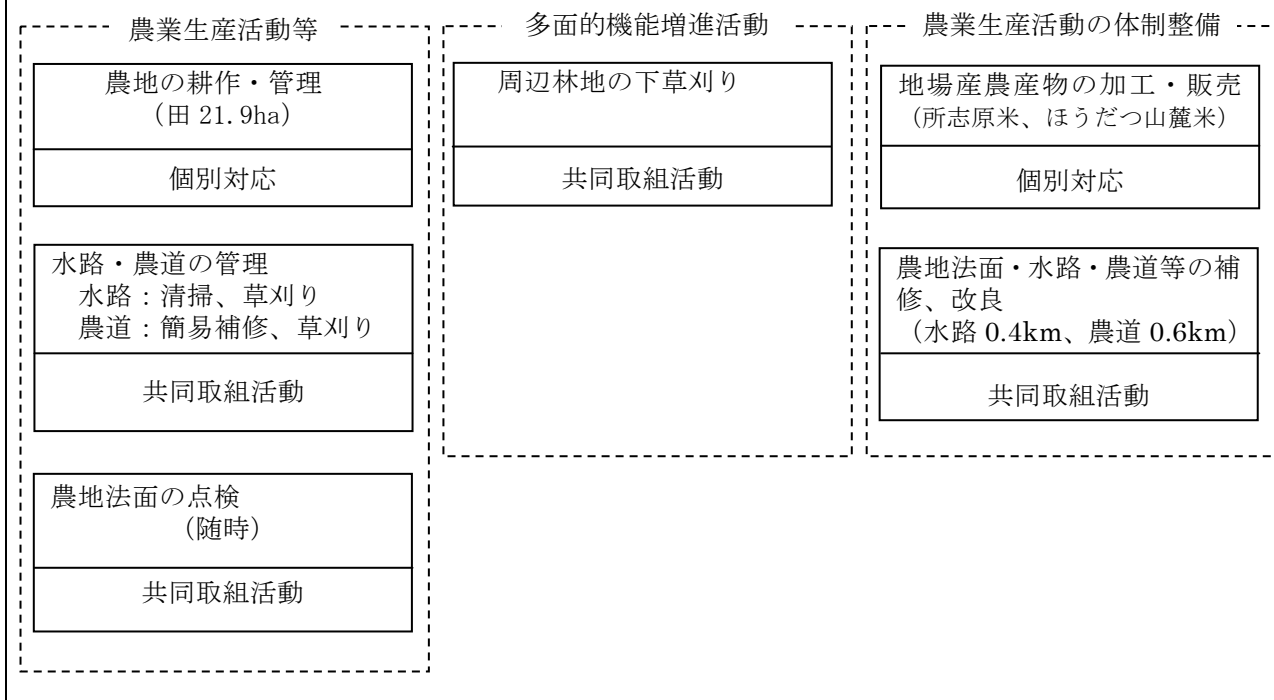
農業従事者が高齢化する現状をふまえ、耕作放棄地が増加しないよう、担い手育成や耕作体制の集団化などの営農体制、継続的な農業用施設の維持、鳥獣害対策など、関係機関と共に 10 年後を見据えて集落の営農を活力ある物にしていく。



[将来像を実現するための活動目標]

○維持管理困難な農用地が発生した場合、担い手が引き受ける。

[活動内容]



[集落外との連携]

所司原村づくり推進協議会が中心となり、所司原キャンプ場をベースに菓膳料理の提供、山菜・キノコ狩り等を通じた交流を都市住民と行っている。

4. 今後の課題等

高齢化する現状に対し、担い手育成や集団的な耕作を視野に入れた営農体制を築き、農道、水路などの農業用施設では定期的な補修等を継続的に行って施設の維持を図り、近年のイノシシ等の鳥獣被害には、関係機関と共に耕作放棄地の対策も考慮しながら獣害の防除を行うなど、今後も本制度を活用し、ブランド米の生産販売や集落ぐるみで継続的に棚田の保全、活用を図っていくことが必要であると考えている。

[これまでの主な効果]

- 機械・農作業の共同化
 - ・ 機械の共同利用 8.7ha
- 多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落等との連携
 - ・ 非農家との連携 10名
- 棚田を活用したブランド米の販売